

令和3年度IBの教育効果に関する調査研究報告

研究代表者 井田仁康

資料2-1

報告者 川口 純 (筑波大学)
御手洗明佳 (淑徳大学)
菅井 篤 (静岡福祉大学)

1. 本報告のイントロダクション

2. 定量的研究班報告

3. 定性的研究班報告

4. 今後の計画 (見通し)

研究結果 定量的研究班（生徒対象質問紙調査）

高校1年生

2021年4月～5月

<対象校>

DP認定校4校

（国立：2校、私立：2校）

<対象者>

377人

高校2年生

2021年4月～5月

<対象校>

DP認定校4校

（国立：2校、私立：2校）

<対象者>

DP生45人（DP初年度生）

非DP生339人

高校3年生

（調査中）

2021年9月～2022年2月

<対象校>

DP認定校10校

（国立：2校、公立：1校、私立：8校）

※高3生在籍の全DP認定校に依頼。

7校から回収済み

DP生（初年度）の傾向

1. DP生の探究学習は、海外の出来事やウェブサイトからも情報を取集していることや、本を一冊読んだり、英語で書かれた文書を読んだりすることから、**非DP生よりも難易度の高い探究学習**を行っていた。
2. DP生は非DP生と比較して、**国際性や総合的な英語力、率先して行動する力**をもつと認識している傾向があり、彼/女らの高校での学習経験の実態を踏まえると**主体的に考え、行動する様子**がうかがえた。

研究結果 定性的研究班（プロジェクト型教員調査）

＜対象＞全国のDP認定校等教員26名8教科（公立:7校、私立:10校）

＜公開研究授業実施校＞ 7校（公立:3校、私立:4校）

概要 IB教員が学び合う協働体プロジェクト

セッション
1

2021年 7月～8月
教科ワーキング
グループ(WG)による
意見交換会



セッション
2

2021年 9月～10月
教科横断的意見
交換会



公開
研究授業

2021年10月～12月
IB研究授業参観
他校の実践から学ぶ



セッション
3

2021年12月
他校の実践を踏まえた
意見交換会



報告書
作成

2022年 3月
1年間の振り返り
交流会
2022年度に向けて

＜結果（途中経過）＞

IB教員相互のネットワーク構築と学び合いが進展し、IB教員自身が教育実践を自省的に振り返り、質向上のための**授業改善・授業開発**が促進された。

今後の研究計画（見通し）

定量的研究班

DP認定校のDP生と非DP生を対象に、学習経験やコンピテンシーの獲得に関する追跡調査を行い、パネルデータを基にDP教育プログラムの教育効果に関する検証を行う。

定性的研究班

今後も継続的・発展的に、IB教員が学び合う協働体プロジェクトを推進し、IB教員の授業実践とその省察から**教育の質向上につながる実践事例を蓄積、共有**していく。

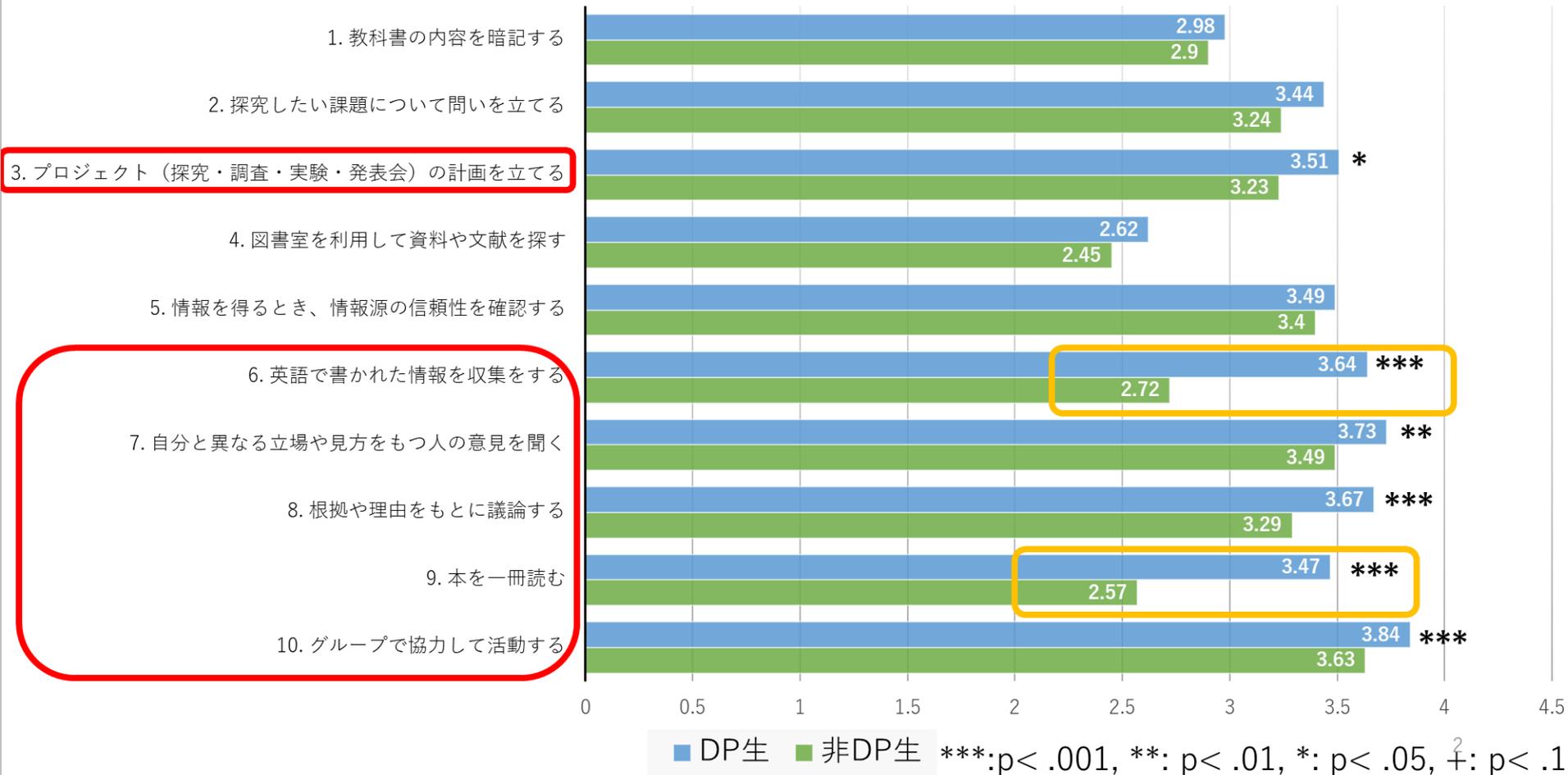
2班の研究の統合、包括的研究

定量・定性両班の相乗効果を持たせながらの研究推進
研究成果の発信（学会発表、学術論文、書籍化など）



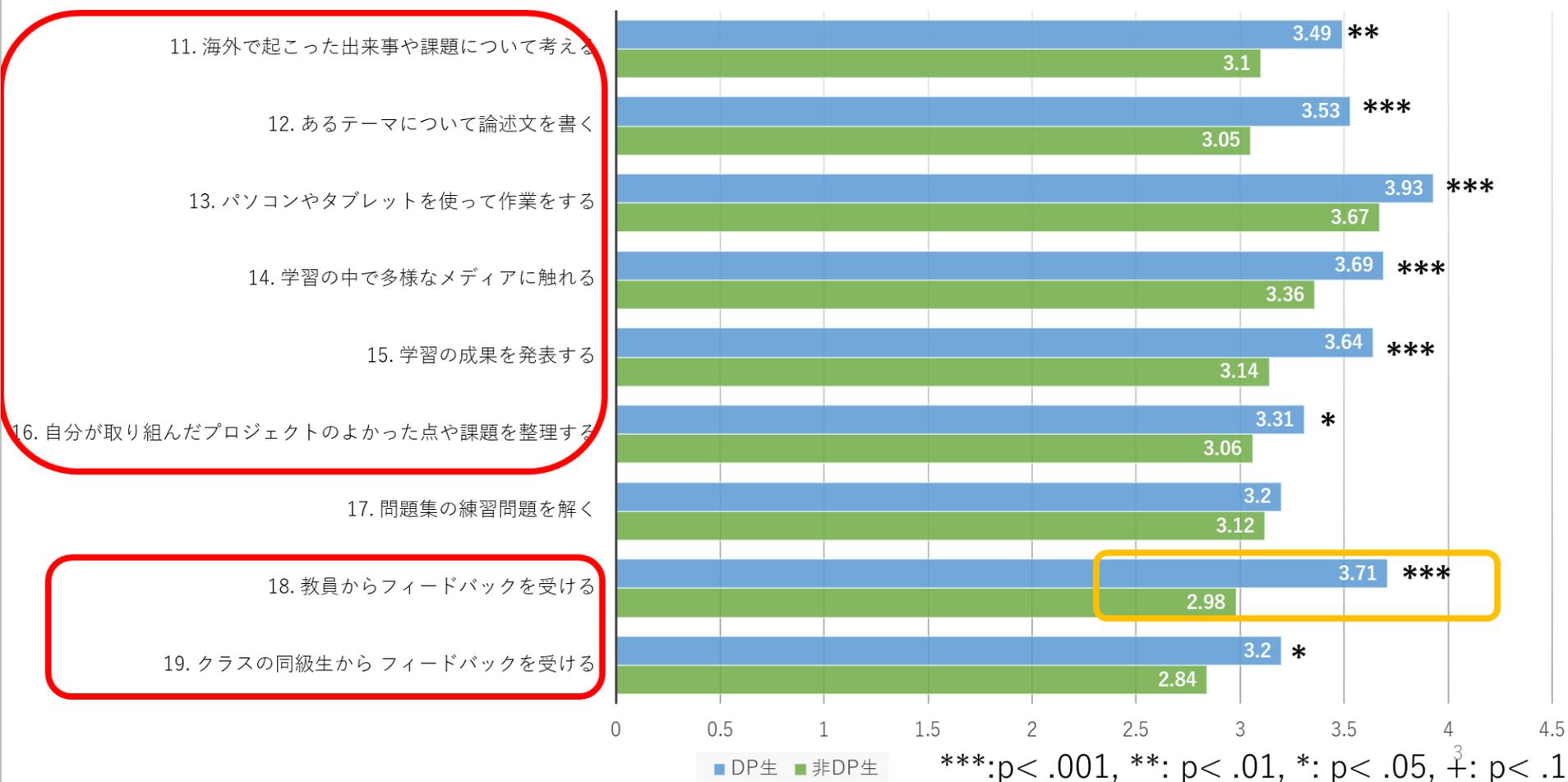
資料 1

学校でどのような学習経験をしているのか(1)



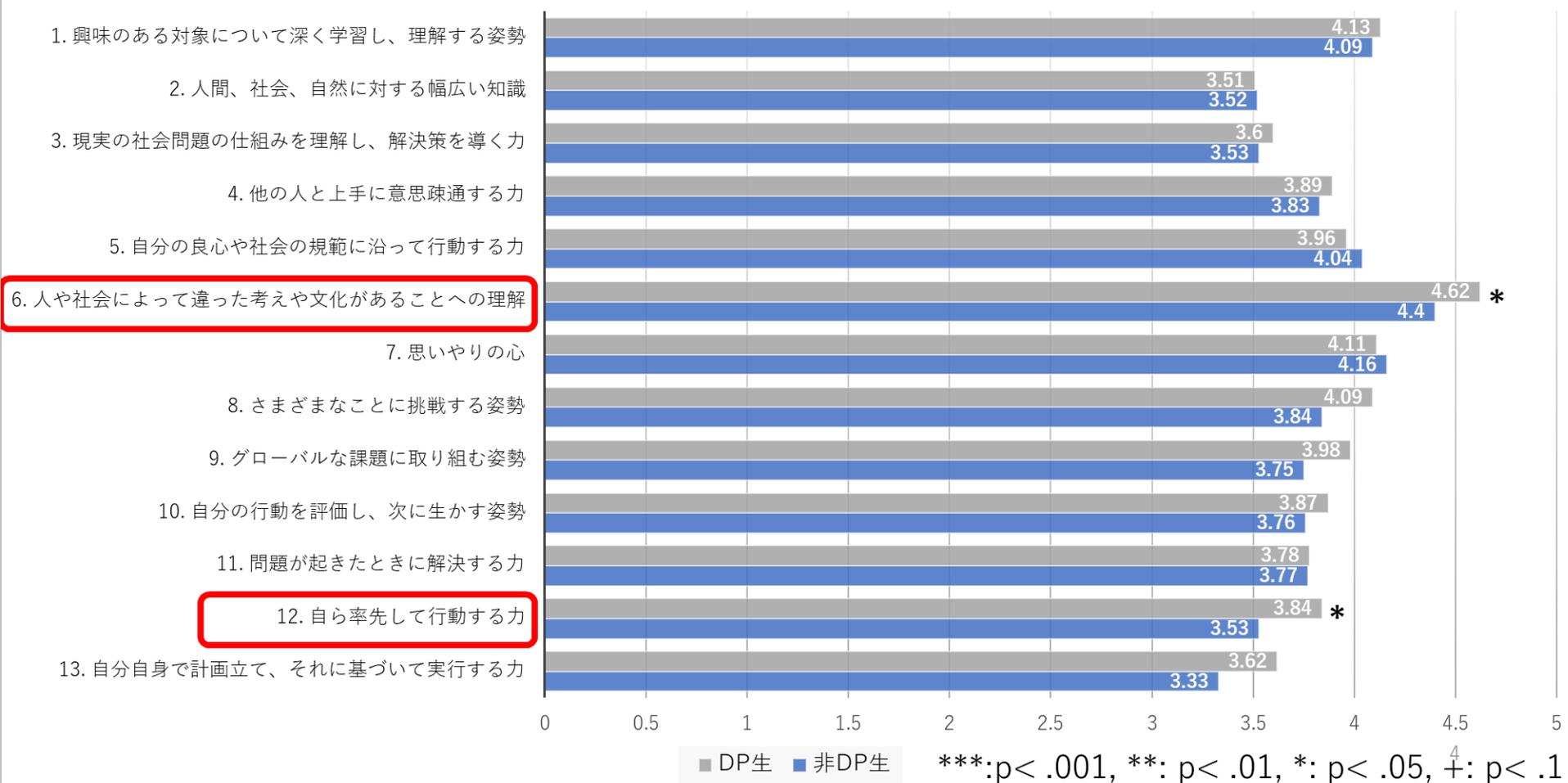
資料 2

学校でどのような学習経験をしているのか(2)



資料 3

どのようなコンピテンシーを身につけているのか(1)



資料 4

どのようなコンピテンシーを身につけているのか(2)

